

プロジェクト 第6回国際セミナー

アジアにおける子どもの発達と教育

- 保育・幼児教育分野における国際協力のあり方を考える -

日時：2005年1月8日

場所：お茶の水女子大学理学部3号館7階大会議室

(内田) 本日は年始のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。「アジアにおける子どもの発達と教育 - 保育・幼児教育分野における国際協力のあり方を考える - 」というテーマで、シンポジウムを開かせていただきます。

このシンポジウムについて説明いたしますと、子どもの発達教育研究センターでは21世紀COEプログラムの一環として幼児教育途上国支援プロジェクトというものを走らせていますが、それが今年で2年たったところでございます。これまで研究成果としては、幼児教育ハンドブックの日本語版と英語版を出しております。入口のところに見本が置いてありますが、日本の幼児教育のあり方をまとめて、それをこれから幼児教育を開始しようという途上国で使っていただくためのものとして作りました。あるいは、こうした一般の本も出しております(「幼児教育ハンドブック」)。

国際的に評価の高い日本の幼児教育に関する情報を開発途上国に対して提供するための基礎的な作業として着手いたしました。少し成果が上がってきたところでございます。今日はこれまでの成果をまとめる機会にさせていただきたいと思っております。

今年が酉年です。鳥の語源はもの皆成熟するというものですが、これまで培った成果が取り運ばれ、取り結ぶというおめでたい年の年明け早々から、このような会を開かせていただきました。

ここで今日皆様のお手元に配布した資料の袋の中身を確認させていただきたいのですが、「アジアにおける子どもの発達と教育」ということで、今日の話提供の先生方の講演内容についてまと

めたものと、指定討論者の先生方のご経歴と、幼児教育ハンドブックの宣伝パンフも入っております。また、私ども子ども発達教育研究センターの事業内容についても、このパンフレットに示しております。もう一つは「発達概念の脱構築」ということで、21世紀COEプログラムの誕生から死までの人間発達科学拠点で1月29日土曜日、10時から5時30分までの予定でやはりシンポジウムが開かれますが、これについての宣伝です。お時間がありましたら、こちらのほうにも参加していただきたいと思っております。

それからシンポジウムについてのアンケート用紙が入っておりますが、これにつきましてはシンポジウムが終わった時にご提出いただきたいと思っております。やはり先生方から評価をいただき、参加者の皆様から評価をいただいて、よりよいシンポジウムを開催するための資料にさせていただきたいと思っております。



もう1つ、質問票が3枚入っているかと思いますが、これはそれぞれの話題提供の先生方のご講演に対してご質問、コメントあるいはご意見などがございましたらお書きいただいて、ディスカッションに入る前の休憩の時間に、前のほうに用意してある箱にご提出いただければと思います。それを踏まえて、また話題提供の先生方にお答えいただく時間を設けたいと思います。質問票にはどなたがお書きになったかの欄がございませんが、ご所属とお名前を書いていただきたいと思います。

それでは、プログラムの説明をさせていただきます。最初に酒井センター長のご挨拶をいただきます。その後は講演セッションと討論セッションの2つに分かれておりますが、講演セッションでは第1に菅野琴先生から「EFAと幼児教育 - ネパールの事例をもとに - 」と題してお話をいただきます。講演2はブンチ・バンダ先生から「スリランカの幼児教育における日本の技術協力 - いくつかの事例を中心に - 」と題してご講演いただきます。講演3では曹能秀先生から「中国における幼児教育の現状と課題」と題してご講演いただきたいと思います。

討論セッションでは、白梅学園短期大学学長で客員教授をされている無藤隆先生から、幼児教育の観点から指定討論をしていただきます。さらに本校文教育学部の助教授であられる浜野先生から、国際教育開発の観点から討論をしていただきます。司会は私、内田伸子がさせていただきます。

それではまず、子ども発達教育研究センター長の酒井朗教授からご挨拶させていただきます。

(酒井) 皆様、明けましておめでとうございます。ただいまご紹介に与りました子ども発達教育研究センターのセンター長を務めております酒井と申します。本日はお正月がようやく明けたという最初の土曜日にもかかわらず、お越しくださいませ、誠にありがとうございます。先ほどご紹介がありましたように、私ども、「アジアにおける子どもの発達と教育」と題しまして、今から3人の先生方にご講演をいただきたいと思いますと考えております。

なお、この企画は先ほど内田のほうからも説明がありましたように、文部科学省の拠点システム構築事業の一環として実施されているものでありますが、そのことについて最初に若干説明を補足させていただきます。

資料集に横書きでその名称が書いてありますが、これは実は文部科学省が国際教育協力を推進するために、国内の各大学に委託する形で、各大学がそれぞれのさまざまな教育課題について、拠点となって、要するにその中心となって国際協力の活動に当たろう、一層の活性化に当たろうということで、昨年度から始められたものです。

先ほど受付で封筒とは別に1枚物の紙をお渡ししたかと思いますが、これは2月7日に予定されている拠点システム事業国内報告会についてのものですが、そこに事業の課題とそれを担当している担当大学があります。その中の1つとしてお茶の水女子大学は幼児教育を担当しているという関係になっております。私どもはこうした活動の一環として、本日このシンポジウムを開催させていただいた次第です。

この拠点の開催、事業の開始に当たり文部科学省から聞いたところによると、実は数学や理科の教育は成果としてかなりの蓄積があるのだそうですけれども、私どもの幼児教育の分野は文部科学省の言い方は「経験の浅い分野」なのだそうです。何が経験が浅いのだろうと思いましたが、要するに開発教育、国際協力という面で経験が浅いということなのでしょう。ただ、後ほど講師の先生から説明があると

と思いますが、国際的にはそういうところもいま非常に重要な課題として提起されている領域であります。そうした領域について本学が取り組むようにということで、現在取り組んでいる次第です。

本日は3名の先生方からご講演いただくわけですが、特にスリランカからお越しのブンチ・バンダ先生は今回の津波の被害の対応に追われる最中にこちらに来てくださいました。本当に大変な時期にお願いする形になり、大変申し訳なく思うと同時に、非常に感謝しております。本当にありがとうございます。

また菅野先生はネパールから来てくださり、曹先生は昨年11月より本センターの客員研究員としてこちらのほうでいろいろ研究されています。本日の発表に当たり、先生方にも年末年始にかけていろいろお手を煩わせたことと思いますが、本当にありがとうございました。本日はよろしく願いいたします。

また、コメンテーターの無藤先生、あるいは浜野先生もどうかよろしく願いいたします。

今回の企画に際して、1つ大変ありがたかったことは、講師の先生方が3人とも非常に日本語が堪能だということです。ですから国際シンポジウムなのに、英語ではなく日本語で開催させていただくことができました。皆様方からも、また後ほどご意見あるいはご質問をぜひ賜りたいと思います。討論の時間には熱のこもった活発な討論をさせていただきたいと思いますので、ご協力よろしく願いいたします。

それではこれにてご挨拶を終了させていただきます。よろしく願いいたします。